

# ニュージーランドの

## 12日間で得たもの

夏休みを利用して行われる、日光市青少年海外体験研修。今年も、六名の生徒が参加しました。研修の成果をご報告します。



オークランド郊外

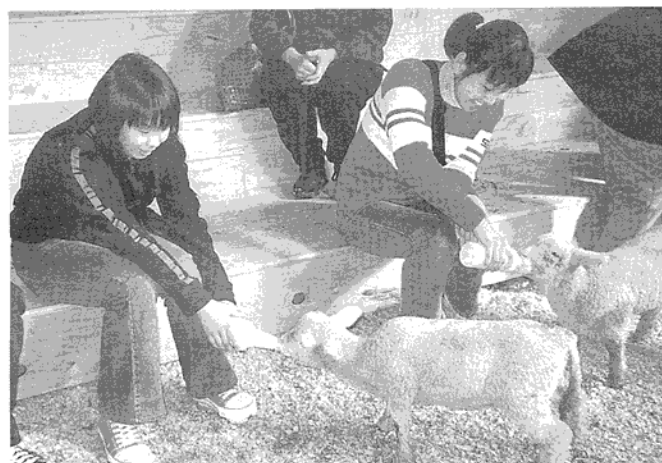
七月二二日(水)、予定より少し遅れて午後九時十分、海外体験研修生(中学生二名、高校生四名)の面々は、期待と不安を胸に抱き、一路ニュージーランドを目指し、日本を後にしました。出発前に行われた六回の事前

研修でニュージーランドの歴史、地理、文化産業についての理解を深め、ホームステイする上での注意を受け、カナダ出身のミシェル先生から英会話を学び、知識は万全です。

現地時間午前十時三〇分、オークランド空港に降り立った私たちは、ひんやりとしたすがすがしい空気を胸いっぱい吸い込み、初めて訪れたこの国でこれから体験するであろうことを想像し、胸躍らせました。

日本は梅雨明け間近でしたが、ニュージーランドは南半球なので冬。しかし、ホームステイ先はニュージーランド北島なので雪は降らず、日光の冬のようにモノクロの厳しいイメージはなく、緑の茂る過ごしやすい気候でした。

空港ではニュージーランドホームステイ協会(NZIIU)の方に出迎えていただき、



大きくなってね・・・小旅行にて

今後の日程等を確認した後、一日間お世話になるホストファミリーと対面するため、ワゴン車でオークランド郊外ワンガパラオア地区にある「ハイビスカスコーストインターメディアイトスクール」に向かいました。これからこの学校が私たちのステディセンターとなります。

ニュージーランドは「地球の箱庭」と呼ばれるのですが、ワゴン車の窓を流れる景色は、日本では見られない木々の生い茂る森、島々が点在する美しい海、沢山のヨットが停泊するハー

バー、近代的なビルが立ち並ぶオークランド市内、どこまでも続くなだらかな丘の牧場と、次々と変わり、学校までの一時間はあっという間に過ぎました。

学校に到着すると、玄関前にはNZIIUのオーガナイザー(この研修すべての企画運営責任者兼英会話の先生)であるモリーンさんが待っていました。モリーンさんはとてもやさしそうな女性でした。初対面の挨拶を交わし、その後教室に案内されました。到着が丁度昼時だったため、教室にはお菓子と飲み物が用意されており、その軽食をとりながらホストファミリーの迎えを待ちました。ホストファミリーと研修生は事前に手紙や写真のやりとりをしているので、お互いの顔はわかっています。自分の迎えがくると研修生達は緊張の面持ちで挨拶をしますが、ホストファミリーはそのような気持ちを溶かすようにやさしく笑いかけてくれました。



スクールの子供達との交流  
「日本のこと教えて！」